

## 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミック下の 医療従事者の燃え尽き（バーンアウト）：1年間の経時変化

本研究は2021年3月に発表した横断研究を発展させ、感染症パンデミック下において医療従事者のバーンアウトの有病率や要因が、長期的に如何に変化するかを探索したものである。今回の研究も、前回の研究同様にバーンアウトの尺度としてMaslach Burnout Indexを用い、2021年2月（第2期）、2021年5月（第3期）に、岡山大学病院に勤務する医療従事者を対象として、COVID-19患者のケアに従事した者・従事していなかった者の2群比較を行った。COVID-19の患者ケアに従事した者では、COVID-19患者数が急増した第1期・第3期でバーンアウトの有病率が高くなる傾向が見られた（第1期50.0%、第2期30.8%、第3期43.1%）。パンデミックが長期化する中、医療従事者の精神的ケアは喫緊の課題である。抑うつといった気分障害が注目されがちであるが、患者ケアの質に影響を及ぼすことが知られる医療従事者のバーンアウトもそれらと同等のレベルのケアが求められる。

Nishimura Y, Miyoshi T, Sato A, Hasegawa K, Hagiya H, Kosaki Y, Otsuka F. Burnout of Healthcare Workers Amid the COVID-19 Pandemic: A Follow-Up Study. Int J Environ Res Public Health. 2021 Nov 4;18(21):11581.